

第19回全日本パラ・パワー リフティング国際招待選手権大会

2019年2月2-3日

日本工学院八王子専門学校 片柳記念ホール

会場

本年度の全日本選手権は、東京都八王子市にある日本工学院八王子専門学校の広大な敷地の中にある、片柳記念ホールで開催することになった。いきさつは、学校の総括カレッジ長の中山先生が、連盟を訪問され、専門学校とパラスポーツのコラボが出来ないか、という大変ありがたい話から、始まった。連盟の目指すパラ・パワーの試合は、いわば選手を主人公としたドラマを見ていただくというものだ。会場全体の明るさを落とし、選手にスポットライトが当たる、という構図は、まさに演劇やコンサート作りと似通うものがある。この専門学校には、様々なカレッジがあり、舞台づくりの支援をしていただいた。また、東京都が共催に、JPC、八王子市や八王子教育委員会、八王子観光コンベンション協会が後援に入ってくださり、観戦促進に大きな力を頂いた。連盟をサポートくださるスポンサーやスタッフは無論、ゴールドジム、近隣の学校の太鼓演奏やダンスの披露、八王子観光のアピール、スカイツリーでのパブリックビューイング、ウェブ配信、海外選手招聘の鉤路市や国分寺市、ラオスの障がい者を支援しておられるNPO法人ADDP、大変多くの方々の支援を受けて、みんなのコラボで実現した大会となった。関係各位、多くの皆さんに心から感謝申し上げたい。



選手の活躍



東京パラリンピックまで二年を切り、東京を視野にそれぞれがこの全日本大会にとりくんでいた。東京パラリンピックの出場権利を得るには、まず、7月の世界選手権に出場することが絶対条件、また、パラリンピックは、原則各クラス1名しか出られないので、このクラスでは、自分が一番なのだ！と名乗りを上げることも、選手にとっては、重要な関心事だ。

女子41kg級では、成毛美和（パワーハウスつくば）選手が51kgを上げて、世界大会参加を決めた。

45kg級では、女子選手を長年リードする、女子パワー界の第一人者、小林浩美選手が、57kgの世界標準を突破して、優勝。本人は、もう少し記録を伸ばしたかったようで、好記録にも浮かない顔をしていたが、世界に向けてがんばってもらいたい。

50kg級では、昨年、せっかく調子を上げてボゴタ（アメリカ）選手権に参戦したが、高度3600mを超える土地での試合が、予想以上に体にダメージを受け、帰国後も、なかなか、記録が戻らない状態が続いたが、連盟の海外招聘コーチとの綿密な連携で、ようやく、アメリカ帰国後2ヶ月たって、体調も、記録も戻ってきた。世界参加は惜しくも決められなかったが、チャレンジカップでは是非、世界標準を突破

して、東京パラへの名乗りを上げてもらいたい。初めて試合に出てきた長澤樹央（パワーハウス）選手が、落ち着いて45kgをマークし、2位に入った。

55kg級では、地力がついているのに、なかなか、それを発揮できなかった山本恵理（日本財団パラリンピックサポートセンター）選手が、しっかりとトレーニングを重ねてきた、という内面的自信が外に現れ、59kgの自己ベスト、日本記録樹立で、世界大会参加を決めた。このクラス2、3位には、過去3回の失格と言う苦い経験を克服し、49kgの自己ベストをマークして、中村光選手（パワーハウス）が銀メダルを獲得した。また、軽森亜希選手が1kg差の48kgをマークして3位に入った。

女子61kg級では、龍川崇子選手が、自らアメリカ選手権で出した日本記録47kgを上回る50kgの日本新記録を樹立した。

女子67kg級には、昨年Jスターで発掘された森崎可林選手が出場した。一年前は、おそらく、まだ、右も左も分からないうちに全日本選手権に参加、当時の自己ベスト37kgをマークし、うれしそうにしていたのが記憶に新しいが、一年たって、今回は、第四試技ではあったが、日本新記録となる55kgをマーク。一年で18kg記録を伸ばす。さすがにJスターで発掘されただけあって、素質は高く、今後の活躍が期待されるどころだ。

女子73kg級では、坂元智香（医療法人メディケアアライアンス あおぞら病院）選手が、惜しくも日本記録樹立はならなかったが、66kgの好記録をマークして優勝した。就職環境も整え、後は、世界そして、東京に向けて、しっかりと階段を上ってってもらいたい。





男子49kg級では、三浦浩選手（株式会社東京ビッグサイト）と加藤尊士選手の一騎打ちが期待されたが、第一試技から三浦選手がリードを保ち、そのまま、加藤選手を引き離して優勝した。追いかける立場の加藤選手は、練習での地力は誰もが認めるほど、伸びているが、加藤選手は、第一試技で自分の記録にかぶせてきた三浦選手にビビってしまった、と、話していたので、今後はパラパワーに向かう精神的鍛錬も課題となりそうだ。ジュニアを卒業した奥山一輝選手（順天堂大学）がどれだけ伸びているか楽しみにしていたが、練習不足だそうで、104kgに留まった。観客席では、東京オリンピックパラリンピック指定校となっている杉並区立桃井第三小学校の生徒さんたちがバス3台で応援に駆けつけてくれた。春に3回の体験会、冬に一度の講演を行った三浦選手を、横断幕を振って華やかに応援してくれた。

男子54kg級では、西崎哲男選手（株式会社乃村工藝社）と迫る市川満典選手（パワーハウスつくば）の戦いが、大きな注目点であった。海外コーチのプログラムをしっかりとこなしている西崎選手は、地力、それと、精神力もついてきており、市川選手の猛追にも冷静に自分の試技を見つめ、確実に自分の試技をものにし、市川選手を振り切った。一方の市川選手は、事故で脊髄損傷を負う前はボルタリングの選手をしていたとの事で、筋肉量、脂肪の無さも、注目されるどころだ。東京パラに向けて、二人でしのぎを削ってもらいたい。昨年、森崎可林選手とともにJスターに選ばれた林剛史選手は、仕事と障がいの兼ね合いに、苦勞をしているが、パラ・パワーを続けて、トップの二人を脅かしてもらいたい。また、今回、トップを脅かす予定だった、光瀬智洋選手（バーベル友の会）は、胸の止めが定まらず、残念ながら失格となってしまった。関西地方は、京都合宿所で、週二回の練習会と、月に二回の合宿を開催しているので、是非、積極的に参加してもらいたい。

男子59kg級では、戸田雄也選手の記録の伸びが期待されたが、直前に行われた釧路市ベトナム招聘合宿で風邪を貰ってしまい、高熱を押しての出場となったので、記録的には、自己ベストを上回することは出来ず131kgに留まった。次回の飛躍に期待したい。このクラスの2、3位の攻防は見ているほうもハラハラさせられるが、今まで、117kgでリードしていた村井都稚夫選手を、同記録体重差で岡田有史選手（株式会社電通国際情報サービス）が世界選手権に名乗りをあげ、最終決定はチャレンジカップに持ち越された。二人がどんな練習をし、どんな、試合を展開してくるのか、チャレンジカップは要注目。志賀貴之選手は、全日本の標準記録を突破するために、わざわざ東京まで挑戦しにやってきた。結果は見事標準記録を突破しての今回の参加で、4位に入賞した。今後の記録の伸びを見ていきたい。

65kg級では、現在このクラスランキング2位の城選手が優勝した。このクラスは、世界選手権参加をめぐって、大攻防が繰り広げられる予定であったが、





肘の故障と様子見で佐野選手が欠場、体調不良で篠田雅士選手が参加辞退、スキーの森井選手は、大事なスキーの試合があるとの事で欠場。このクラスで一体誰が世界の切符を手にするのか、全くわからない状態となっている。チャレンジカップが見逃せない。

72kg級は樋口健太郎選手がどこまで記録を伸ばすか、注目されたが、今回は、170kgに留まった。健常者で長年トレーニング指導にかかわってこられ、それと比べると、パラパワーのトレーニング理論に、戸惑っておられるのかもしれない。せっかくの才能を益々伸ばしていただきたい、と、心から願うところだ。樋口選手に迫ると思われた田中翔悟選手（三菱重工高砂製作所）だったが、調子を落としているようで、138kgの第一試技しか取れなかった。連盟の期待を担うこのクラスのエースの1人、がんばってもらいたい。3位には、しばらく体調不良であった鈴木昭一選手（パワーハウス）が131kgで復活して入賞、4位は長崎の串間政次選手で記録は、120kgであった。

80kg級では、昨年のアジア大会で突然力が出なくなってしまった宇城元選手（順天堂大学）。この「アジアの衝撃」からいかに回復すかが課題であった。大変苦し

んできた宇城選手であったが、先輩諸氏のアドバイスを受け、合宿でも徐々に回復の兆しを見せており、どこまで復調するか、大変、注目されるところだった。宇城選手が三試技成功させ、最終的に記録を176kgとしたことで、アジアの衝撃は、ようやく解消され、世界に向けて、始動するところとなった。二位、三位、と、昨年のアジア大会と同順位で、金谷晃央選手、佐藤芳隆選手と入り、それぞれ141kg、140kgをマークした。この記録は、連盟の定める世界参加標準を突破している。二人ともアジアから同じだけ伸びており、今後の接戦で世界の代表が決まる。4位には、アメリカ大会でも、きちっと結果を出した野沢選手が124kgをマークして入った。

88kg級の大堂秀樹選手（SMB C日興証券株式会社）は、昨年は、アジア、アジアパラと全力の活躍で銅メダルを獲得、その後の疲労が心配だったが、自分と向き合い、世界に向けて、しっかりと調整している。試合の日は、初めての会場でもあり、大変な坂道を車いすで登ったらしく、三頭筋がパンプして大変だったそうだ。連盟としては、学校のスクールバスを会場のすぐ近くまで入るよう手配していたが、スクールバスを使わない人にまで配慮しておらず、来年以降の課題となった。大堂選手としては、想定内の試合運びで、182kgまで成功させ、更なる記録更新は世界大会までお預けとなった。

二位に入った石原正治選手（オリンパステルモバイオマテリアル株式会社）は、135kgまで押したが、自己ベストには至らなかつ





た。アメリカ大会直前の怪我の回復が課題であったが、もう少し、回復には、時間がかかりそうだ。チャレンジカップには、間に合ってもらいたい。

97kg級は、馬島誠選手（日本オラクル株式会社）が、世界標準の160kgを突破。世界選手権に向けて記録を益々伸ばしてもらいたい。このクラス2位の佐藤和人選手は、自己ベストの147kgをマークしたものの、後、世界標準まで5kg。4月のチャレンジカップでは、これを突破してもらいたい。

107kg級は、200kgリフターに名乗りを上げるべくこの壁に挑戦してきた中辻克仁選手（日鉄住金環境プラントソリューションズ株式会社）が、ついに壁を破り、益々の今後の活躍に期待をつなげた。

107kg以上級は、松崎泰治選手が特別試技で147kgをマーク。ジュニアの連盟の定める世界標準まであと7kg。地元大分に帰って、就職も決まったと聞くので、生活面、トレーニング面で充実し、4月のチャレンジカップでは飛躍を期待したい。



いよいよ、東京パラリンピックまで1年9ヶ月。連盟選手の正念場が始まる。



2018年最優秀選手賞；大堂秀樹（88kg級）

本大会最優秀選手賞；

男子；中辻克仁（107kg級）

女子；小林浩美（45kg級）

今大会で、日本工学院八王子専門学校から支援を頂いたカレッジ；

- ・スポーツカレッジ : トレーナーや競技舞台上の補助員として参加、また、日常トレーニングにもサポートとして参加。校内誘導係も担っていただいた。
- ・クリエイターズカレッジ : 大会会場の映像撮影と開会式や閉会式、ダンスや太鼓パフォーマンスのMC
- ・デザインカレッジ : 大会イメージ画・サイネージ等の作成
- ・ミュージックカレッジ : 大会会場の音響関係、照明、音楽制作
- ・ITカレッジ : 競技記録の表示・データ管理
- ・医療保育カレッジ : 身体ケア（鍼灸、マッサージ）
- ・テクノロジーカレッジ : 選手応援の電子キット（バーサライター）

東京都の共催と国際招待試合

東京都に共催いただき、三カ国から選手を招聘した。招聘した選手は次の通り。

ラオス

- ◇ ピア・ラオパクディ Pia Laophakdee (男子 49Kg 級) 2018 年 10 月アジアパラ金メダル)
- ◇ ラサミ・シパセウス Latsami Sipaseuth (女子 41Kg 級)

ベトナム

- ◇ グエン・ビン・アン Nguyen Binh An (男子 54 kg 級) 2018 アジパラ金メダリスト
- ◇ グエン・バン・プク Nguyen Van Phuc (男子 59kg 級) 2018 アジパラ 3 位
- ◇ ダン・ティ・リン・ポウ Dang Thi Linh Phuong (女子 50kg 級) 2018 アジパラ金メダリスト
- ◇ チャウ・ホアン・トゥエ・ロアン Chau Hoang Tuyet Loan (女子 55kg 級) 2018 アジパラ 2 位

韓国

- ◇ ケンジン・チョイ Keunjin Choi (男子 59 k g 級)
- ◇ スン・ユン・ジュン Sung Yun Jung (男子 97 k g 級)
- ◇ ユセオン・ファン Yuseon Hwang (女子 67 k g 級)
- ◇ ヒュン・ジュン・リー Hyun Jung Lee (女子 86 k g 級)





		2019/2/2	試技						順位
階級	Name	体重	1	2	3	特別	記録	所属	Open Div
41	Latsami Sipaseuth	40.4	51	55	60	-61.5	60	Laos	
	成毛美和	40.8	49	51	-52.5		51	パワーハウスつくば	1
45	小林浩美	43.2	57	-60	-60		57		1
50	Dang Thi Linh Phuong	49.7	70	-75	78		78	Vietnam	
	中嶋明子	48.9	48	50	53		53		1
	長澤樹央	47.4	42	-45	45		45	パワーハウス	2
55	Chau Hoang Tuyet Loan	54.8	60	70	75		75	Vietnam	
	マクドナルド山本恵理	54.6	52	56	59	-60	59	日本財団パラリンピックサポートセンター	1
	中村光	52.6	47	49	-54		49	パワーハウス	2
	軽森亜希	53.4	46	48	-50		48		3
61	龍川崇子	59.9	47	50	-53		50		1
67	Yuseon HWANG	63.5	65	72	76	-80	76	Korea	
	森崎可林	65.9	50	53	-55	55	53		1
73	坂元智香	69.8	61	66	-68	-68	66	医療法人メディケアアライアンス あおぞら病院	1
86over	HYUNJUNG LEE	106.2	95	105	110		110	Korea	

日本新

日本新

日本新

日本新

		2019/2/2	試技						順位
階級	Name	体重	1	2	3	特別	記録	所属	Open Div
49	三浦浩	46.7	114	119	-125		119	株式会社東京ビッグサイト	1
	加藤尊士	48.6	113	-118	-120		113		2
	奥山一輝	48.3	104	-107	-107		104	順天堂大学	3
	中川翔太	30.1	-25	-25	-27		0		
54	西崎哲男	53.2	-132	132	137	-140	137	株式会社乃村工藝社	1
	市川満典	52	-125	125	132	-137.5	132	パワーハウスつくば	2
	林剛史	50.7	92	97	-100		97		3
	光瀬智洋	51.8	-115	-115	-115		0	バーベル友の会	
59	Nguyen Binh An	54.5	140	155	-165		155	Vietnam	
	Nguyen Van Phuc	57.1	120	131	141		141	Vietnam	
	KEUNJIN CHOI	56.2	130	140	-150		140	Korea	
	戸田雄也	58	126	131	-134		131		1
	岡田有史	57	111	116	117		117	株式会社電通国際情報サービス	2
	村井都稚夫	58.2	-102	102	-107		102		3
	志賀貴之	57	-100	100	-104		100		4

日本新

階級変更59Kg級エントリー

階級	Name	体重	試技				記録	所属	順位
			1	2	3	特別 試技			
65 ジュニア65	城隆志	64.3	128	133	-136	-138.5	133	オムロン太陽株式会社	1
	鈴木明彦	64.3	105	110	111		111	パワーハウス	2
	内田基哉	64.1	105	-440	110		110		3
	藤本美樹	63.6	-400	-400	105		105		4
	大宅心季	60.7	55	60	-63		60		1
72	樋口健太郎	70.9	160	170	-474		170		1
	田中翔悟	71.4	138	-444	-447		138	三菱重工高砂製作所	2
	鈴木昭一	71.6	121	128	131		131	パワーハウス	3
	串間政次	71.2	120	-425	-425		120		4
80	宇城元	75.4	164	171	176		176	順天堂大学	1
	金谷晃央	76.9	130	136	141		141	パワーハウス	2
	佐藤芳隆	78.1	140	445	445		140	パワーハウスつくば	3
	野沢哲也	77.9	120	-424	124		124		4
88	大堂秀樹	84.3	175	182	494		182	S M B C 日興証券株式会社	1
	石原正治	85	125	135	445		135	オリンパステルモバイオマテリアル株式会社	2
97	馬島誠	95.7	150	160	465		160	日本オラクル株式会社	1
	佐藤和人	95	447	147	452		147		2
	SUNGYUN JUNG	95.7	140	150	160		160	Korea	
107	中辻克仁	105.1	189	196	200		200	日鉄住金環境プラントソリューションズ株式会社	1
ジュニア 107以上	松崎泰治	130.6	449	449	145	147	145		